

世界農業遺産・日本農業遺産

Globally Important Agricultural Heritage Systems

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems

農業遺産とは

農業遺産とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった、世界的に(又は我が国において)重要な伝統的農林水産業を営む地域(農林水産業システム)を示します。

世界農業遺産は、国際連合食糧農業機関(FAO)により認定され、日本農業遺産は、農林水産大臣により認定されます。

認定基準

世界農業遺産の申請地域は、世界的な重要性、申請地域の特徴(FAOが定める5つの認定基準)及び保全計画に基づき評価されます。日本農業遺産の申請地域は、我が国における重要性、申請地域の特徴(世界農業遺産の5つの認定基準に、日本が独自に定めた3つの基準を加えた8つの認定基準)及び保全計画に基づき評価されます。

1. 世界農業遺産-日本農業遺産
食料及び生計の保障
地域コミュニティの食料及び生計の保障に貢献すること。

2. 世界農業遺産-日本農業遺産
農業生物多様性
食料及び農林水産業にとって世界(我が国)において重要な生物多様性及び遺伝資源が豊富であること。

3. 世界農業遺産-日本農業遺産
地域の伝統的な知識システム
「地域の食糧で伝統的な知識及び慣習」、「独自の適応技術」及び「生物相、土地、水等の農林水産業を支える自然資源の管理システム」を維持していること。

4. 世界農業遺産-日本農業遺産
文化、価値観及び社会組織
地域を特徴付ける文化的アイデンティティや土地のユニークさが認められ、資源管理や食料生産に関連した社会組織、価値観及び文化的慣習が存在すること。

5. 世界農業遺産-日本農業遺産
ランドスケープ及びシースケープの特徴
長年にわたる人間と自然との相互作用によって発達するとともに、安定化し、緩やかに進化してきたランドスケープやシースケープを有すること。

6. 日本農業遺産
変化に対するレジリエンス
自然災害や生態系の変化に対応して、農林水産業システムを保全し、次の世代に確実に継承していくために、自然災害等の環境の変化に対して高いレジリエンス(強靱性)を保持していること。

7. 日本農業遺産
多様な主体の参画
地域住民のみならず、多様な主体の参画による自主的な取組を通じて地域の資源を管理する仕組みにより、独自の農林水産業システムを次世代に継承していること。

8. 日本農業遺産
6次産業化の推進
地域ぐるみの6次産業化等の推進により、地域を活性化させ、農林水産業システムの保全を図っていること。

世界農業遺産・日本農業遺産

Globally Important Agricultural Heritage Systems

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems

認定による効果

1. 地域住民の自信や誇りの創出・醸成

大分県国家草創学芸地域取組事例

- 小・中学校：世界農業遺産を題材にした授業を開発。
- 高等学校：地域を支えてきた農業者等に関き取りを行い、記録を残す取組を実施。

効果

生まれ育った地域への理解と誇りを醸成
農業遺産の継承を担う次世代の育成



2. 農産物の付加価値の向上

石川県能登地域の取組事例

- 世界農業遺産の保全・継承に資する商品を開発。
- 認定商品については、認定のロゴマークをつけてPR。

効果

世界農業遺産 未来につなげる
「能登の一品」の認定数が44品に



3. 観光客の増加

石川県能登地域の取組事例

- 世界農業遺産認定を契機に、郷土周辺に住む住民が自らガイドとなり、郷土の魅力を発信するためのツアーを開発。
- 認定を契機に、地域の魅力の情報発信を強化。

効果

認定を契機に能登を代表する樹田への来客数は
年間42万人から61万人に。
国内外から地域を訪れる観光客が着実に増加



4. 移住・定住の増加

新潟県佐渡市の取組事例

- 世界農業遺産認定を契機に、地方自治体の主導で、地域おこし協力隊の受入れを開始。

効果

地域おこし協力隊として、認定の翌年
(平成24年)から令和3年までで延べ48人を採用



森・里・湖（うみ）に育まれる 漁業と農業が織りなす琵琶湖システム

日本農業遺産 世界農業遺産

滋賀県琵琶湖地域

多くの名産品が生まれる琵琶湖の周辺では、戦国時代以降、人が開墾した水田にミズゴケ等の緑藻が殖え、それを養分源として利用するようになり、そして、人は農作業の傍ら、こうした湖産物を捕獲する等も受け皿の漁業を営み続けてきました。

漁業の代表種はエビです。戦国時代には、漁業の豊かに対峙するためエビの殻を肥料とするなどの社会的な仕組みも整えられました。

漁獲された湖産物は、「なれずし」等の「なれずし」にも加工され、重要な食料となるほか、郷土を代表するお土産や贈り物のお供えとしても用いられてきました。こうした食文化は、漁業と農業を受け継ぐ精神文化的な基盤の醸成に寄与してきました。また、多様な関係が参画して琵琶湖の水質や生態系を保全する。現代の「環境に配慮した農業」や水産物保全にもつながっています。



琵琶湖システムについて（琵琶湖システム）



森・里・湖に育まれる 漁業と農業が織りなす
琵琶湖・システム

世界農業遺産は、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり発達し、形づくられた伝統的な農林水産業とそれに関わって育まれた文化、景観、生物多様性などが一体となった世界的に重要な農林水産業システムを国際食料農業機関(FAO)が認定する仕組みです。

本県では、水田農業に変えられながら発展してきた伝統的漁業を核とした「琵琶湖と共生する農林水産業」を「森・里・湖(うみ)に育まれる 漁業と農業が織りなす琵琶湖システム」と呼んでおり、令和4年7月18日にFAOから「世界農業遺産」に認定されました。

漁業 伝統的な琵琶湖漁業

千年以上の歴史を持つエビ漁は、金魚の習性を利用し、「つぼ」と呼ばれる部分で漁獲します。必要なサイズ・量だけを漁獲できる持続可能な漁業として、現代に受け継がれています。



琵琶湖のエビ(エビ漁)と湖上に広がる水田



琵琶湖八咫



水産物保全活動

農業に配慮した漁業

琵琶湖の水質や生態系を守るため、排水を管理し農薬や化学肥料を減らす「環境に配慮した農業」やオーガニック農業、琵琶湖から採れた魚に由来する魚卵を育てる「魚のゆりかご水田」などが営まれています。



環境に配慮した農業



琵琶湖から採れた魚に由来する魚卵を育てる「魚のゆりかご水田」



すし切り体験



おずし

水産物の保全

水産物の保全には、漁業者や地域住民も参画しています。山に水を補給して育てることが水質や水産物を防ぐことに役立っているほか、川によって産卵する湖産物の繁殖環境の保全にもつながっています。

食文化 伝統的な食文化とお祭り

「おずし」に代表される湖産品をご飯に漬け込んで発酵させる保存食「なれずし」は、贈り物や祭礼のお供えにも使われてきました。こうした食文化や祭礼は、地域の絆の醸成にもつながっています。

琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業は、国連の定めた持続可能な開発目標(SDGs)の17の目標の達成に寄与しており、特に「6 安全な水を世界に」、「14 水産資源の保全」、「15 陸域生態系の保全」、「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」などの達成にも貢献しています。また、琵琶湖版SDGsであるマザーレイクゴールズ(MLGs)にも、大いに貢献しています。



Mother Lake Goals

人と牛が共生する美方地域の 伝統的但馬牛飼育システム



日本農業遺産 世界農業遺産

兵庫県兵庫美方地域

美方地域は標高400m以上の山間部で、黒毛和牛の生産が盛んであり、黒毛和牛は400年以上前から、地域の重要な畜産資源として、山に放牧し、家畜飼育に大切にされてきました。また、黒毛和牛の飼育に欠かせない、種々の山草や樹木を、牛ふん堆肥を肥料として利用することにより、地域の多様な生物資源を保全しています。

明治31年(1898)には全国に先駆けて「牛糞簿」が整備され、これが血統登録の基礎となり、全国の黒毛和牛の血統に与った地域となりました。当地域では全国の黒毛和牛の中でも、地域内産にこだわった改良を続けてきた結果、世界でもこれに類しない血統の会話が生まれ、日本の黒毛和牛の貴重な遺伝資源として大きな役割を果たしています。



令和5年7月5日 世界農業遺産認定

「人と牛が共生する美方地域の伝統的但馬牛飼育システム」



但馬牛は「神戸牛」の素牛(もと牛)として知られる和牛で、美方地域は古くから高品質な但馬牛の子牛の生産地域として知られ、日本初の牛の血統登録「牛糞簿」(ぎゅうせきぼ)を整備し和牛改良の先駆けとなりました。

美方郡産但馬牛は、郡内産にこだわった改良により独自の遺伝資源が保全され、全国の黒毛和牛の遺伝的多様性の維持に大きな役割を果たしています。

但馬牛の草原への放牧や棚田の畔草の給餌を行うことで農村環境や多様な生物資源を保全するとともに、牛ふん堆肥を田畑に還元することにより地域資源を循環利用する持続可能なシステムが継承されています。



近畿管内における農業遺産の認定地域

【世界農業遺産】 26ヶ国86地域、日本15地域、**近畿管内3地域**

【日本農業遺産】 24地域、**近畿管内7地域**



世界農業遺産 (WHK) 日本 (JWHK)
備前焼地域

人と牛が共生する美濃地域の
伝統的備前焼システム



日本農業遺産 (JWHK)
丹波篠山地域

丹波篠山の黒大豆栽培
〜ムラが支える優秀種子と飲料生産〜



世界農業遺産 (WHK) 日本 (JWHK)
琵琶湖地域

森・水・湖(うみ)に育まれる
漁業と農業が織りなす琵琶湖システム



日本農業遺産 (JWHK)
南あわじ地域

南あわじにおける水産・たねづくり
農業の発展システム



日本農業遺産 (JWHK)
高野・花園・清水地域

高野・高野山と有田川上流域を結ぶ
持続的農村システム



日本農業遺産 (JWHK)
有田地域

みかん栽培の礎を築いた
有田みかんシステム



日本農業遺産 (JWHK)
海南市下津地域

下津産出しみかんシステム



世界農業遺産 (WHK)
みなべ・田辺地域

みなべ・田辺の梅システム



みなべ・田辺の 梅システム

(撮影提供: 和歌山県農業振興課)



世界農業遺産

和歌山県みなべ・田辺地域

みなべ・田辺地域は、その土地を養分が豊富な新米が育ち、新米にウバメシなどの新米を美味しくつなぐ伝統を継承して、豊かな地域を築いています。新米は水田から豊作の恵みを受け、豊かな地域を築くとともに、ウバメシからは驚くべき良質な食糧生産が実現されています。

梅が農業を興らせるために、新米に梅を添える土産のウバメシなどが、花の盛り開花を導いてくれています。ウバメシにとっても、梅は花の少ない2月頃から豊作を導いてくれる貴重な存在であり、両者の間で豊かな関係が築かれています。地域に伝わる数百年の7割は梅の産地にあり、梅は地域の基幹産業として人々の暮らしを支えています。



みなべ・田辺地域梅システムに関する詳細情報

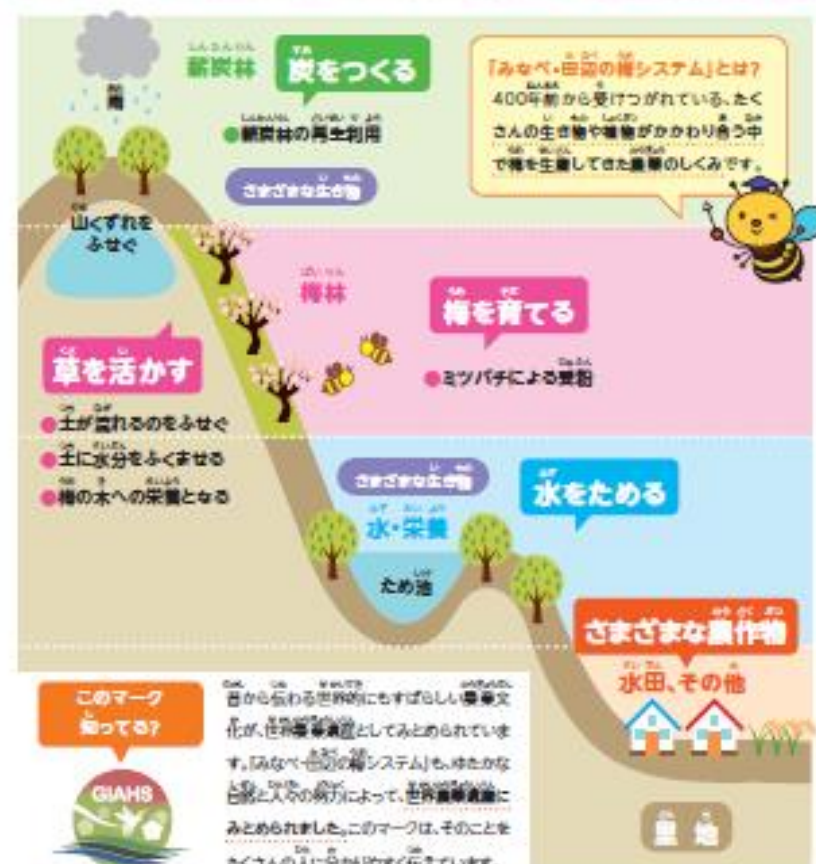


(撮影提供: みなべ・田辺地域梅システム推進委員会)

世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」

未来につながる梅づくり

「みなべ・田辺の梅システム」のしくみを知ろう!



みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会

「みなべ・田辺の梅システム」のホームページはこちら



日本農業遺産

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems



丹波篠山の黒大豆栽培～ムラが支える優良種子と家族農業～
(兵庫県丹波篠山地域)

水不足を克服するために稲作をしない犠牲田を設け、黒大豆の栽培を可能にする「乾田高畝栽培技術」を生み出した約300年前から継承される農業。

に ほ ん の う ん ぎ よ う い ざ ん

日本農業遺産

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems



すいとう ゴヤ ふうけい
水稲とたまねぎ小屋の風景

みかん さいばい いもづき さす ありだ
南あわじにおける水稲・たまねぎ・畜産の生産循環システム
(兵庫県南あわじ地域)

農地が少なく、水に恵まれない「島という環境」で発達してきた効率的な水利
用や、耕種農家と畜産農家の各階層が小規模集落内で補完関係を構築して資源
循環型農業を行う、独創的で伝統的な知識システム。

に ほ ん の う ん ぎ よ う い ざ ん

日本農業遺産

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems



みかん さいばい いもづき さす ありだ
階段園でのみかん栽培の風景

みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム
(和歌山県有田地域)

みかん栽培を日本で初めて生計の手段に発達させるとともに、みかん農家・苗
木農家・出荷組織が連携し、産地全体で日本一の「有田みかん」産地を形成・
維持してきた地域共同のシステム。

に ほ ん の う ぎ よ う い さ ん

日本農業遺産

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems



傾斜地に広がるみかん畑

下津蔵出しみかんシステム (和歌山県海南市下津地域)

国内に設置した土壁の蔵でみかんを熟成させる「蔵出し技術」を生み出し継承している。下津地域はみかん発祥の地と云われ、ミカンに関連した独特の文化を形成している。

に ほ ん の う ぎ よ う い さ ん

日本農業遺産

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems



「高野山への信仰」を背景に築かれた農林業システム

聖地 高野山と有田川上流域を結ぶ持続的農林業システム (和歌山県高野・花園・清水地域)

物質調達が困難な山上の聖地高野山を支えるとともに、高野山との結びつきの中で平地の少なさを乗り越え、暮らしを発展させてきた持続的農林業システム。

日本農業遺産

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems



伝統的なランドスケープ

岩津ねぎを核とした資源循環型農業システム＝伝統種子の継承と地域連携による黒地黒山保全＝
(兵庫県朝来地域)

伝統野菜である「岩津ねぎ」を含む野菜、水稻、但馬牛を中心とする経営と、
稲わらや牛ふん堆肥等を活用する資源循環型農業により、貴重な生物多様性が
育まれている。

日本農業遺産

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems



収穫前の登熟した山田錦

兵庫の酒米「山田錦」生産システム
(兵庫県北播磨・六甲山北部地域)

酒米の品種特性や気候風土に適応した栽培技術、酒米産地と酒造家が結びつき
相互扶助する「村米制度」が継承されるとともに、酒米を代表する品種「山田
錦」の厳格な種苗管理が行われ、高品質な酒米の一大産地として発展した。

1 洪水が起きないようにする

～田畑に水を一時的にためることができる～



川沿いを歩いていると、大雨がふったときに、近くの川が
あふれてしまったことを思い出しました。

こんにちは



田は水をためられます



砂の土は水を吸収します



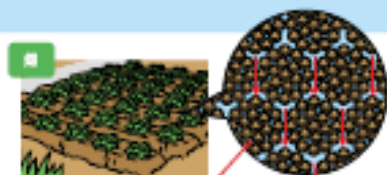
解説

田畑は、水を一時的にためることができます。

田は周りをあぜで囲まれているため、また畑は土のすき間が多い
ため、水をためることができます。このため、洪水を防ぐことにも、
役立っています。



田はあぜで囲まれているので、水をためることができます。



砂の土は、大きなすき間の中に小さなすき間がたくさん
入っているような構造です。雨がふったとき、小さな
すき間のすき間に水がたまりやすくなります。

2 川の流れを安定させ きれいな地下水をつくる

～田畑にためられた水は、川にもどったり地下水になる～



小さな橋をわたると、きれいな水がわき出ていました。

帰って来よ！



水田の水は地下にしみこみます



地下水は生活にも利用されます

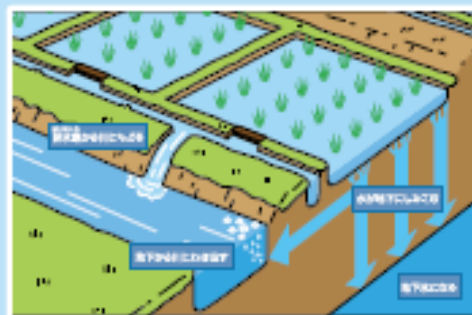


解説

田は、雨水を地下にしみこませて時間をかけて下流に流す働きがあります。

田にためた水は、一部は排水
路から川にもどります。また、
一部はゆっくりと地下にしみこ
み、地下水となったり川へわき
出して、川の流れを安定させる
働きがあります。

雨も水をためることができるので、同じ
働きがあります。



3 土砂くずれや 土の流出を防ぐ

～耕された田畑は、土砂くずれや土の流出を防ぐ～



田畑(いり)が見えてきました。大雨がふったとき、耕されていない田のある斜面で土砂くずれがあったことを思い出しました。



田こころの手入れが、大粒を守ります



おぼろけ(ぼろけ)の土砂くずれを防ぐために、この斜面の斜面を耕して土を固めておく作業。



【注】(注) 山の斜面を利用して耕すことで、土砂くずれを防ぐことができます。

【注】(注) 山の斜面を利用して耕すことで、土砂くずれを防ぐことができます。

田こころの手入れと耕すことで、土砂くずれを防いでいます。

田畑はこまめに手入れをすることで、ひびわれなどを早期に発見することができます。また耕すことで、田畑にためられた水はゆっくりと地下にしみこむようになるため、地下水が急に増えるのをおさえ、土砂くずれなどの災害を防ぐことにつながります。

作物を作っていると...



雨の降、作物を作っていないと...



4 美しい風景をつくる

～農村独特の風景をつくる～



田畑(いり)のふもとに、ヒマワリ畑も見えてきました。



美しい農村風景



農業の営みや家屋、里山が、美しい風景をつくっています。

農村では農業が営まれることによって、作物や農地、農家の家屋、周辺の水辺や里山が一体となって、美しい風景をつくっています。



おおいのメモ帳 4

農村には、美しい風景がある
きれいな写真がとれたよ！
おおい市利用のヒマワリ畑



【まとめ】

農業を続けることで、美しい風景ができる

4 かやぶき
また行きたい！と思った
りすこから
ササをもらった。



5 伝統文化を守る

～お祭りや行事が受けつがれている～



さらに歩いていくと、笛の音が聞こえてきました。お祭りをやっているようです。



見て
いって!



何のお祭り
なんだろう?

うさお
農村文化の専門家

お祭りは農耕と
深い関わりがある
ものもあるんだ!



農作に感謝する

「秋の収穫祭」
五穀豊穡を祈る祭り



牛を使った代りかきをする

「牛のこしき」
田植えの準備を助ける祭り

農村文化の専門家
うさお

解説



農村では、歴史や文化を伝える行事、
伝統芸能が受けつがれています。

農村には、農作物の豊作に感謝するお祭りや、農作業の安全をいのる行事など多くの伝統的な文化があります。農業は、地域の伝統や文化を受けつぎ続けることに、大きな役割を果たしています。



あおいのメモ帳 5

お祭りは農作の
おいのりから始まった

こんなお祭りも
あったよ

石川県の
お祭りのこと



【まとめ】

お祭りは農作の感謝の
心を伝えている



5

祈願

うさおから
ササをもらった。

農村は古く
からの伝統を
守っている



10

6 生きものを育てる

～いろいろな生きものがすみ場所になる～



聞き声が聞こえてきたので田の中を
のぞいてみました。田には、いろいろな
生きものがいるようです。



生きものが
たくさんいるよ



水田にはどんな
生きものがいるの?

トンボやカエルなど
いろいろな生き物や
小動物がいるよ

カエル博士
生きものの専門家

解説

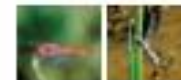


水田に集まる生きものたち

田がまわりの山や川、水路とつながることで、いろいろな
生きもののすみかとなり、豊かな生態系が保たれています。

アメンボ、トンボ、タニシ、ホタル、メダカ、オタマジャクシ、カエル、ドジョウ、
イモリ、ヘビ、サザナギなど

生きものが
たくさん
いるよ



アメンボ

トンボ

タニシ

ホタル

メダカ

オタマジャクシ

カエル

ドジョウ

6

○ 【令和7年8月4日(月)～8月29日(金)】

近畿中国森林管理局 1階「森林(もり)のギャラリー」(プロムナード)

での展示の様子】

